

文学部歴史学科日本史学専攻 2021年度カリキュラム 卒業必要単位数：124単位

<p><b>卒業認定・学位授与の方針</b> (ディプロマ・ポリシー：DP)</p>	<p>文学部歴史学科では、教育の理念にもとづいて定められた下記の5つの能力を身につけ、4年間在学し、必要な科目を124単位以上修得した学生に対して、卒業を認定し、学士（歴史学）の学位を授与する。</p> <p>(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心・意欲、態度、主体性〕 駒澤大学の建学の理念に基づき、自己形成と学問研究を密接に関連して行う態度や能力を修得していること。また、宗教に対する理解と寛容な態度を修得していること。</p> <p>(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕 人文、社会、自然に対する豊かな教養を修得し、外国語の確かな運用能力と異文化を理解する力を身につけていること。歴史についての幅広い知識や理解力を修得し、様々な現象に対する歴史的洞察力を修得していること。異文化として歴史を理解し、現代社会を客観的に理解する能力を身につけていること。</p> <p>(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕 研究の素材となる史資料の所在を調査し、それらを収集する能力を備えていること。史資料の性格を的確に理解して正確に読み解く能力を修得していること。既存の研究の弱点や問題点を発見する批判能力を修得していること。幅広い教養や歴史の理解を通じて問題発見能力を修得していること。</p> <p>(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕 討論を通じて、他者を理解し、自己の研究を客観化する能力を身につけていること。みずからの調査・研究の結果から自分なりの仮説を構築し、その内容を論理的かつ明確に表現する能力を身につけ、卒業論文として公開すること。</p> <p>(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕 自ら設定した問題意識に従って史資料との対峙・対話を行い、そこに内在する問題を掘り起こし、批判的な検討と客観的な分析を通じて、歴史を論理的かつ体系的に理解する能力を身につけていること。</p>
<p><b>教育課程の編成方針</b> (カリキュラム・ポリシー：CP)</p>	<p>1. 教育内容 1) 「仏教と人間」を必修科目とするとともに、「日本仏教史」および「仏教史」を専門科目として開講する。(DP1) 2) 「教養教育科目」と「外国語科目」の履修により幅広い教養の修得を目指す。また、異文化理解力を高めるために、英語以外の外国語も必修とする。1年次には専攻別の「新入生セミナー」と「基礎演習」を同一の教員が担当し、大学生としての基礎能力の育成から専門教育への導入までをシームレスに実施できるようにする。概説科目、史学概論を置いて専門教育への導入教育とし、各専攻に応じた歴史への興味を深めるような教育を行う。さらに専門教育への橋渡しとして、日本史学専攻では史学史、考古学専攻では考古学史を必修とする。(DP2) 3) 日本史学専攻では「史料講読」、「古文書研究」、「記録史料学」により、外国史学専攻では「研究法」と「文献史料講読」により、史資料を調査し、読解・分析する能力を養う。考古学専攻では「考古学発掘実習」と「考古学実習」により、考古遺物や遺構、遺跡を調査・分析する能力を養う。(DP3) 4) 「時代史」、「各説」、「特講」などの講義科目により、歴史を広く深く研究していく専門的知識や歴史把握の方法を修得する。歴史に対する幅広い理解や知識を修得することを目的とし、これらの科目は専攻の枠を超えて受講できるように配慮する。(DP4) 4) 3年次の「演習Ⅰ」、4年次の「演習Ⅱ」により、史資料の読解方法を学ぶとともに、広い視野から洞察できる歴史的感覚、思考力、応用力を養い、自身の問題設定にもとづいて卒業論文を執筆する準備を行う。演習での個人発表により、自己の考えを的確に表現する能力、討論からは異なる意見を理解し、真の歴史像を構築していく能力を養う。最終段階の「卒業論文」では、自ら設定した問題の解答を導き出し、それを的確に表現する能力を身につける。なお、考古学専攻では「考古学発掘実習」において、協働性を発揮して報告書を作成する能力を養う。(DP5)</p> <p>2. 教育方法 1) 入学年度の4月に新入生研修旅行を実施し、教員・学生間の親睦を深めるとともに、実際に史資料に触れることを通じて、歴史学科での学びへの円滑な導入を図る。 2) 「新入生セミナー」、「基礎演習」、「研究法」、「演習」は、原則として少人数制のもとで、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。 3) 外国史学専攻と考古学専攻においては、1年次から4年次まで専任教員が担当するクラス制の授業や実習を設け、学生に対する手厚い指導や学修状況の経常的な把握を行う。 4) 卒業時に卒業年次生よりアンケートを実施し、その内容を教育課程や教育方法の改善に活用する。</p> <p>3. 評価 歴史学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生の入学時から卒業後の成長を見据えた教育を行うために、全学的に取り組む機関レベルの評価・測定（全学の該当部分を参照）と同時に、歴史学科三専攻の教育課程レベルと科目レベルでも学習成果の評価・測定を行う。</p>
<p><b>入学者受け入れ方針</b> (アドミッション・ポリシー：AP)</p>	<p>文学部歴史学科では、学科の学位授与の方針や教育目的を得心した、以下のような学生の入学を期待している。</p> <p>1. 歴史学科が求める学生像 (AP1) 高等学校の教育課程において、日本史や世界史などの地理・歴史科目のみならず様々な知識を幅広く修得し、大学において教養と専門的知識・技能を修得するための基礎的な学力を持っている。〔知識、理解、技能〕 (AP2) 本学が仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解し、かつ歴史に対する旺盛な好奇心と自発的に歴史を学ぼうとする熱意を持っている。また、本学科で修得した知識や技能を実社会で活かしたいという態度と目的意識を有している。〔意欲、関心、態度〕 (AP3) 現代に生きる我々が抱えている問題について、その歴史的背景を考え歴史的な脈に沿って理解し判断しようとする意識を持っている。また、物事を様々な角度から考える柔軟な思考力を持ち、根拠に基づいて考察・判断した結果を論理的に表現する能力を有している。〔思考力、判断力、表現力〕 (AP4) 自らの意見・考えを持ち、異なる意見や価値観を尊重し理解しながら、建設的に対話を進める能力を持つ。また、これまでに修得した技能や経験を活かし、多種多様な個性を有する本学科において主体的に協働していく意欲を有している。〔主体性、多様性、協働性〕</p>

